

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 3月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390200253		
法人名	社会福祉法人グリーンコープ		
事業所名	グループホーム ほのか・八代		
所在地	熊本県八代市本町四丁目2-28		
自己評価作成日	平成28年 3月 5日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月 26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アクシス
所在地	熊本県熊本市南区八幡9-6-51
訪問調査日	平成28年 3月 11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>八代市内の中心地に位置しアーケード商店街は散歩コースです。ひな祭りやちびっこカーニバルなどのアーケードでのイベントに出かけられます。食事は、安心・安全なグリーンコープの食材を利用し、時にはほのかの畑で採れた野菜を使用したり、畑で収穫したスイカでスイカ割り大会をします。おやつ作りなどは利用者さんたちと一緒にすることもあります。誕生会はその方の誕生日に合わせて手作りのケーキでお祝いします。春の花見は朝からおにぎりを利用者さんたちと一緒に作って出かけます。お彼岸には近所の利用者さんたちの菩提寺に墓参りに伺います。地域との関わりも大切にし地域の祭りの時は出店します。妙見祭りの際は神幸行列をほのか前で利用者さんと一緒に見物し地域の方たちと触れ合う機会を持っています。楽しく生活できるように利用者さんの声に耳を傾け、その方の持てる力を引き出せるように、スタッフみんなで話し合っ運営しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は町内会に入会しており、総会や懇親会にも出席し、地域の一員として日常的に交流している。5周年の感謝祭では、近所にチラシを配り、近隣の住民を招待しての記念行事を行っている。また地元神社の祭りでも積極的に参加しており、手芸品コーナーや皿・バッグなどのリサイクルコーナー、職員手作りの赤飯や豚汁を販売する食バザーコーナーなどを出店し、地域住民との交流に力を入れている。また家族会では、利用者の日頃の状況をDVDで鑑賞したり、玉入れ合戦を利用者と一緒に楽しんだり、利用者の歌やダンスなども披露している。ダンスではYMCAを行ったとのことで、色とりどりのポンポンを利用者と一緒に作り、リハーサルを行った上で当日の家族会に臨んだそうです。利用者参加型のこのような家族会は、とてもよい取り組みだと思います。写真には、利用者の自然な笑顔が写っており、とても印象的でした。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ほのかの理念が開所時にみんなで話し合っ決めて。毎朝、唱和し初心を忘れないように心がけている。	基本理念は、開所時に当時の職員が話しあって作り上げている。実践に取り組む姿勢として毎朝唱和し、迷った時には理念に照らして考えるようにしている。職員からは業務的になってしまい、利用者の気持ちになっていない場合もあり、理念に立ち返るようにしているという話があった。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、町内の総会や懇親会にも参加した。4月に5周年感謝祭を行い地域の方を招待。手作り料理と利用者・スタッフの歌・踊りも披露した。地域の神社の祭りの際は、グループ内のワーカー達と手作り品や、リサイクル品、食バザーなど行った。	5周年の感謝祭に、運営推進会議メンバー、利用者家族、地域の方々など、総勢40名程の参加があり、職員手作りの料理と、利用者・スタッフが歌や踊りなどを披露し、大変盛り上がったようである。また塩屋神社の縁日では、毎回手作りの品やリサイクル品、それから赤飯や豚汁などの食バザーを行い、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協からの要請で校区福祉会の講師を務めたこともある「認知症になられても楽しく暮らせるために」の演題でグループホームでの暮らしを通して認知症への理解など、地域の方たちがより身近に考える機会が持てたのではないかと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の様子を説明したり、事業所運営についてご意見を頂事業所運営についてご意見を頂き、参考にしていく。	町内会会長、婦人会分会長、民生委員2名、市職員、利用者家族、地域包括支援センター職員などがメンバーとなっており、会議では利用者の様子を説明したり、活動状況及び実施した研修の報告などを行い、運営についての助言や意見をもらうようにしている。	運営推進会議は認知症ケアや地域密着型サービスの理解啓発を図り、事業所が地域づくりの拠点として機能することをめざしています。事業所の取り組みや課題、また地域が抱える問題点などを話し合える場となることに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として、市担当者も毎回参加して頂き、定期的に、相談・報告している。研修会の案内をメールで頂いたり、介護保険制度に関する相談などもその都度行い、助言を頂きながら進めている。	市役所の担当者も運営推進会議のメンバーとして毎回出席しており、事業所の実情などについて詳細な報告を行っている。運営上、分からない点や判断に迷うことが出てくれば、電話や出向き助言や指導を受けている。市の担当者とは、友好的な関係を築いている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職場内研修を行った。身体拘束にはスピーチロックや鍵の施錠も含まれることを共有した。	職場内研修の他、本部や地域密着型サービス連絡会などの研修会にも参加している。職員からはスピーチロックについて話しがあり、思わず“ダメ”とか“ちょっと待って”などと言ってしまうことがあり、課題だという話があった。玄関の施錠については、防犯上の観点から夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職場内研修を行い、利用者の尊厳を大事にすることを日々心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在成年後見制度の利用者が1名。入居当時、日常生活自立支援事業を利用していたが、成年後見制度利用に移行するに伴い、市長申立の手続きから鑑定の同行などの支援を行った。成年後見人とは日常的に連絡を取り合い相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者やご家族へ契約書を読み上げ説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解、納得を図るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見・要望があれば、管理者から職場会議で職員へ報告し検討している。運営推進会議や管理者会議・介護リーダー会議でも報告相談し、運営に反映させている。家族会ではアンケートを取り、要望については職員に周知した。意見箱も設置している。	年に1回は家族会を行っている。遠方の家族からの協力も得ており、家族会では利用者の日頃の表情をDVDで鑑賞したり、歌やダンス、玉入れなどを行っている。またアンケートを家族会で取り、意見や要望などの収集にも取り組んでいる。これまでにアンケートによる要望として個別訓練計画書を作成し、支援を行っている。	今後とも家族とのコミュニケーションを大切にし、意見や要望また苦情などの言い易い雰囲気づくりに努め、サービスの質の向上を目指して欲しいと思います。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案を日常的に聞いたり、意見要望などノートに職員が、記入している。職場会議で職員と話し合い、了承されたことは、反映させている。	職員一人一人が出資者であり、話し合って運営していく体制を取っている。日常の業務の中で気付いたことや提案などは、申し送り帳の中に記載するようにしており、これまでに職員のシフトに関する件や、利用者のケアのあり方などについて話し合い、改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部が事業所から離れており、代表者は月1～2回の本部での会議で管理者からの報告となっている。		

13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部では、年間研修計画をたてて、研修を行っている。外部研修の案内も常時行い参加を促している。参加後は、職場会議での報告、研修を行い職員で共有している。介護福祉士修得に向け受験対策講座を本部にて開催。受験料、交通費の助成制度がある。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>熊本県地域密着型サービス連絡会へ加入。八代ブロックの副世話人を務めている。研修会など企画・参加し、情報交換を行っている。法人内のグループホームの職員同士の交流も行っている。11月に認知症指導者のグループホームへ法人内の職員11名で訪問し、見学及び看取り研修をした。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人からの聞き取りを第一に考え、ご家族の話なども併せて、これまでの生活習慣や馴染みのものを聞きだし、自宅にいるような雰囲気にならせるように心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学、申込みの際に、ほのかの施設や共同生活についての説明をし、家族の不安なことや要望などを聞き、家族の想いがケアに活かせるように心がけている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の様子や生活習慣などを把握しながら必要としている支援を見極め対応に努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の持てる力を引き出すように努め、洗濯物干しや洗濯たため、生け花、調理の盛り付けなど家族の一員として、一緒に行っている。人生の先輩として生き方、暮らし方を教わり、職員も成長させて頂くという気持ちを持って接するように心がけている。</p>		

19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会も頻繁にある。来訪された際はホームでの様子を伝えていく。行事の案内もし、共に楽しく過ごしてもらっている。家族会も開き家族間の交流も図っている。請求書配布時に「ほのか便り」と併せて職員の手書きのお便り（近況報告）を配布している。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの病院やご近所への買い物など支援に努めている。	近所のお寺が菩提寺という方もおられ、彼岸には利用者数人が連れだつて、お参りに行くようである。また食べ物などの買い物を近所の店によく出かけている。その他、家族の面会も頻繁にあり、中には友人の面会がある利用者もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の生活を大事にしながら、利用者同士仲良く過ごせるように努めている。男性2名にはみなさんとのゲームに誘ったり、誕生会の際は、一緒にテーブルで食事するように促したり、花束を渡す係を担ってもらったりとみんなの輪に入れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでにほのかで看取りを行い3名の方が亡くなられた。また看取りはできなかったがほのか退去後に亡くなられた方のお墓に利用者と一緒に参りした。		

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人からの聞き取りや、なにげなく言った言葉を受け留め、スタッフ間で情報交換して検討している。言葉が発せられない利用者には、ご本人の表情や態度から推察したり、家族からの情報を元に本人の希望、意向の把握に努めている。	家族からの情報や日々の係わりの中で、なにげなく発せられる言葉や表情・態度などから、思いや意向の把握に努めている。職員からは、声をかけた時の表情や例えばネギのくるくるを作る際に持たせて見た時の表情など、非言語コミュニケーションの大事さを痛感しており、表情や態度の中から把握するように努めているという話が聞かれた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活状態を記録し、把握に努め申し送りの際に引き継ぎをしている。ケア会議にて情報交換し、スタッフ間で共有している。		

25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職場会議・ケア会議にて本人の様子を話し合い、本人、家族の希望や要望を聞いた上で、ケアプランに反映させている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議・ケア会議にて本人の様子を話し合い、本人、家族の希望や要望を聞いた上で、ケアプランに反映させている。モニタリングは利用者の担当者決めで行っている。	月1回の職場会議及びケア会議は、ほぼ全職員が参加して行われており、利用者の詳細な状況について話し合っている。なお、家族からの要望などは、面会時に話ながら聞き取り、現状に即したケアプランになるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人提供記録に、本人の発せられた言葉・日々の様子や気づきを記入し、申し送りの際読み取りを行う。ケア会議で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者や家族の状況、その時々ニーズを把握し、柔軟に対応し、支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々からの情報、アドバイスにより、利用者が心身から暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を聞き、基本的に、利用者のこれまでのかかりつけ医に受診している。認知症専門医への受診も併せて行い的確な病状を把握している。病院受診の際は、職員が同行している。病状が悪化した場合などご家族、医療機関とも連携を図っている。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期受診・専門医受診ともに職員が付き添っており、一部家族が付き添われる場合には、血圧手帳など必要な情報を家族に知らせ、適切な医療が受けられる様に支援している。認知症の専門医受診の他、口腔ケアとして居宅療養管理指導を受けている方も数名おられる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師と介護職員は相談しながら個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。介護リーダーは看護師である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、入院の手続きも職員が行い、入院中も頻りに病院へ面会に行き、病院関係者との情報交換や相談をしている。		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応についての指針」や看取り同意書を作成し家族会にて説明した。ほのかでの看取りを希望される利用者は看取り介護計画書を作成。家族・医療機関・職員と連携し看取り介護を行った。	契約時に“重度化した場合の対応についての指針”について説明を行っている。事業所ではこれまでに3例の看取り実績があり、昨年12月の時には3名の利用者が葬儀に参列され、一緒に献花をし、見送られたそうです。また、日々職員のスキルアップにも取り組んでおり、本部研修会や看護協会などの勉強会にも参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域での救急救命講習を受講した。職場内での訓練は、看護師を講師に実施した。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議のメンバーに協力を呼びかけている。年2回消防避難訓練を実施し、1回は、町内会にも案内し消防士立会の下、町内役員・家族なども参加して開催した。	消防避難訓練は年に2回行っており、1回は消防士立ち会いのもと町内会役員や家族の協力のもと実施している。もう1回の夜間想定訓練では、19時にスタッフ会議の時に行っている。非常時の備えについては、水・食料品・カセットコンロのほか、避難に必要なアイテムが一式準備されている。	災害の発生に対して利用者の確実な避難誘導が求められます。日頃の訓練の重要性を再確認するとともに、地域の協力体制づくりにも取り組んで欲しいと思います。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者には敬語を使うように心がけている。スタッフによって馴れ馴れしい口調になっている場合もあるが、個人の尊厳を守るような声かけをするように話し合っている。居室に入る際は、利用者に声かけして、入室している。	人生の先輩である、利用者に対して失礼のない言葉使いや誠実な態度での対応を心掛けている。職員からは、後ろから声掛けしたりしないで、必ず顔を見て声をかける様にしていることや、無視しないこと、またトイレや入浴支援時の対応について注意を払っていると話が聞かれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でご本人が思いや希望を言いやすい言葉掛けに心掛けている。利用者の自己選択、自己決定を大切にするように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、希望に添えるように、柔軟に対応するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台に化粧水や乳液、個人所有のブラシなど準備し、ご自分でできる方には自由に使える環境を整えている。訪問美容の利用を支援している。外出の際は、ご自分で服を選んでもらい、おしゃれを楽しんでもらっている。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなど利用者が言いやすい雰囲気にならば、メニューに追加したりと工夫している。利用者の能力に応じて、食事の盛り付け、おやつ作りなどは時々利用者と一緒にやっている。	現在、介護の必要な方が2名おられる。リングなどは薄く切ったり、すり下ろすなど個別に対応を行っている。また利用者の希望にも応える様にしており、例えばある利用者の希望から刺身を個別に出したするなどの対応も行っている。食事の盛り付けやおやつ作り、台拭きなど、利用者が出来ることはお願いするようにしている。その他食事前には口腔体操を行い、食事が美味しく食べられる様な支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録し把握している。一人ひとりの歯の状態を把握し、食材によっては刻みやすりおろしミキサー食など工夫している。食が進まない方にはゼリーやプリン、好みのパンやジュースなどを差し上げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた食後のケアに努めている。訪問歯科の利用もやっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけをしている。日中は布パンツのみや布パンツにパット着用、夜間は紙パンツ、オムツで対応など自立に向け支援に心がけている。	チェック表を付けており、時間や立ち上がる、落ち着きがなくなるなどのひとりひとりの特徴をつかみ、トイレでの排泄を支援している。夜間はリハビリパンツの利用者も昼間は布パンツを着用し、自立への支援を行っている。職員からは、私と一緒に来てもらっていいですか？とか、立って来てもらっていいですか？などと、人それぞれに考えた声掛けを行っていると言が聞かれた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録し、便秘ぎみの方にはバナナや乳製品、乳酸飲料など食事による便秘予防に努めている。牛乳が苦手な方以外は毎日牛乳を飲んでいただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は基本的に日中の時間帯。入浴剤の活用や季節によっては、ゆずや菖蒲を入れて季節感を楽しんで頂いている。失禁のあった場合は入浴を促している。	お湯はひとりひとり入れ替えており、リフト対応の方が3日に1回、その他の方は2日に1回の割合で入浴支援を行っている。入浴時の注意点としては、転倒防止、皮膚の観察、室温のチェックなどに気をつけている。入浴剤の活用も行っており、家族からの差し入れもあるようである。	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるように室温の調節、布団干しなど行っている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬名・目的・用法・容量また病状の変化についても記録、申し送りなどによりその都度情報を共有している。薬ファイルも準備し、いつでも確認できるようにしている。投薬マニュアルを作成し、投薬の際は、利用者名・日付など声に出して確認してから与薬し、飲み終えるまで見守るようにしている。飲み込みの悪い方にはゼリーで溶いたり工夫している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>簡単な家事を利用者と一緒に行ったり、生け花をお願いしたりとの方が役割を持って生活できるように支援している。歌や民謡の好きな方、トランプの好きな方などその方の好みを聞き出し、生き活きと暮らせるように心がけている。</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物に同行したり行事の際は、利用者からの意見をもとに博物館、アーケードの催事、ショッピング、外食など企画し実施した。また、家族と旅行の際はスタッフ2名が同行した。</p>	<p>日中は職員数も多くなるので、出来るだけ外出出来る様に対応している。すぐ近くにアーケード街があり、買い物に出かけたり、日常の散歩コースとして利用している。事業所の前面道路が妙見祭の神幸行列のコースにもなっており、亀蛇を見物したり、また近くの神社の獅子舞見物などにも出かけたりしている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>1名以外は職員が預かっている。一名の方は財布にお金を入れておくことで安心されている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族から贈り物が届いた際など、電話をかけて話せるようにしている。年賀状は、全員写真入りの年賀状を作成し、その方の状態に応じて、名前を書いて頂いた。ご本人の希望を尋ね、複数のご家族に送った。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者に庭に咲いた花や季節の花を活けてもっている。フロアの壁には季節感ある飾りを利用者と一緒で作成し飾っている。エアコンの風を不快に思われる利用者がおられるので常時室温に留意している。</p>	<p>壁面には、季節感あふれる桃の花の貼り絵が飾られており、その淡いピンクが室内の雰囲気をとて和ませていました。そこに集われる利用者の顔も、とても穏やかで安心感が伝わってくる様でした。室内の環境については気を配っているようで、温度管理や湿度管理に十分に配慮しているとの事である。水回りも含めて、異臭などは全く感じられなかった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングのソファや一人掛け椅子などその日の気分に応じて思い思いに過ごせるように居場所工夫をしている。一人になられた時は、さりげなく見守るようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅に居る雰囲気大切にし、畳の生活に慣れている方は畳を置くなどご家族や本人と相談し、馴染みの家具や身の回り品など置くようにしている。ご家族の写真なども飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>	<p>居室の基本的な設備はエアコン、クローゼットとなっている。ベッドに関してはレンタルでの対応となっている。事業所でも自宅での生活を引き続き送ってもらうことを基本に支援しており、畳を置いたり、家具や身の回り品などは、今まで使用して来た馴染みの物を持参してもらう様に話をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーで共有部分には手すりを設置。床材が木で、クッション性がないので、転倒しないように見守っている</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない